

研究報告

地域で生活する精神障がい者の
ストレングスを高めるケアに取り組んでいる
看護師の姿勢に関する文献検討

**Lieerature review of attitudes of nurse,
who to enhance the strength of
mentally disabled persons dwelling in the community**

塩見理香 (Rika Shiomi)* 畦地博子 (Hiroko Azechi)**

要 約

本研究は、既存の文献を活用して、地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる看護師の姿勢を明らかにすることを目的に行った。しかし、そこに焦点を当てた文献が見出せなかったため、看護師のみならず、精神科医療・福祉雑誌・社会福祉分野から広く文献を検索した。その結果、地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢は、【人に焦点を当てる】【対象者を尊重する】【対象者と信頼関係を築く】といった姿勢を基盤とし【力が備わっていると信じる】【個人の強さに焦点を当てる】をもつことでその人のストレングスを見出し、【共に歩む】という姿勢により協働していくことで成り立っていると考えられた。これらの姿勢がストレングスの基盤となり、ストレングスを高めるケアにつながっていると考えられる。

キーワード：精神障がい者 ストレングス 看護師の姿勢 地域生活

I. はじめに

我が国の精神保健医療福祉は、2004年9月に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」にて、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方策を推し進めていくことが示された。その後、2008年度から「精神障害者地域移行支援特別対策事業」が実施され、地域生活の定着に向けた支援が示されている。2010年度には、「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会（2009年）」の報告書の提言により、「精神障害者地域移行・地域定着支援事業」を行うこととなった^{1)~3)}。このように現在の精神保健医療福祉の焦点は、「入院生活」から「地域生活」へと移行している。そのため、地域で生活する精神障がい者への支援体制を整える必要があるが、人材不足や地域資源の不足などにより、十分な支援体制が整っていない現状である。

精神障がい者の地域生活支援の対策として、

精神障がい者の問題点を発見し解決するために社会資源と結びつける伝統的な発想は、際限のない継続的な働き掛けが必要となることから、そのような支援から決別する必要がある⁴⁾⁵⁾。そのために、今後、精神障がい者を支える専門職は、従来の足りないところを補っていくという発想からその人たちのもつ力を活かした支援という発想に変換しケアを実施する必要があると考える。このような発想の転換が行われることで、精神障がい者は、自分の力を発揮できる場を見出し、自信を持つことができるようになる。そして、ポジティブに物事を捉えることが可能となり、精神障がい者が望む生活を送ることができると考えられる。

ストレングスの視点でケアを実践していくためには、基盤としてストレングスを志向する姿勢が必要であり、姿勢が存在しないと十分なケアを実践することはできないと考えられる。そこで、「地域で生活する精神障がい者のストレ

*高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程

**高知県立大学看護学部

ングスを高めるケアに取り組んでいる看護師の姿勢」を明確にすることを目的に研究に取り組むこととした。しかし、「地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる看護師の姿勢」に焦点をあてた文献は見出されていなかったため、看護のみならず、精神科医療・福祉雑誌、社会福祉分野から広く文献を検索した。そして、ストレングスの概念を明確化し「地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢」を明らかにするために文献検討を行った。この結果は、精神障がい者の地域生活を支える看護について考察するための一資料とすることができると思われる。

II. 研究の方法

1. 研究のデザイン

本研究のデザインは、文献レビューである。

2. 研究方法

本研究は下記の2つの段階を通して実施している。

1) 第1段階：ストレングスの定義の抽出

(1) 対象となる文献

ストレングスの定義を導くためにCiNii(2004~2014年)、医学中央雑誌(2001~2014年)を用いて、ストレングス、精神看護またはソーシャルワーカーをキーワードに検索を行い85件が抽出された。海外文献では、Strength, nursingをキーワードに検索を行い、CINAHL(1980~2013年)で72件、MEDLINE(1980~2014年)で56件が抽出された。また、高知県立大学・高知短期大学総合情報センター図書所蔵資料検索システムにて「ストレングス」を検索し14件が抽出された。これらの文献よりストレングスの定義について明記された8文献^{6)~13)}を対象に文献検討を行った。

(2) 分析方法

収集した文献から、ストレングスの定義を抽出し分析・検討を行った。

2) 第2段階：地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢の抽出

(1) 対象となる文献

看護師の姿勢の定義を導くため、CiNii(1995~2012年)を用いて姿勢、看護者または看護師をキーワードに検索を行ない63件が抽出された。それらの文献より看護師の姿勢の定義について明記された3文献^{24)~26)}を対象に文献検討を行った。

ストレングスを高めるケアに取り組んでいる看護師の姿勢に焦点を当てた研究は見られなかった。そのため、CiNii、医学中央雑誌、高知県立大学・高知短期大学総合情報センター図書所蔵資料検索システムから看護師、ソーシャルワーカーなど地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアへの取り組みを記述した既存の227文献の中からストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢が読み取ることができた14文献^{4) 5) 8) 10) 13)~22)}を用いた。

(2) 分析方法

上記に示した文献から定義にあてはまると考えられた記述を抽出、分析した。また、地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢についての記述を抽出、分析を行った。

3. 倫理的配慮

本研究は、すでに発表された文献を用いて、研究を行うという特性から著者の意図を損なわないように事実を忠実に抽出し、表現も細部に留意して分析を行った。また、研究の質を担保するうえで、精神看護に精通した研究のスーパーバイズを受け、質的な内的妥当性について確認を得た。

III. 結 果

1. ストレングスの定義

著者らによってその内容は異なっているが、ストレングスの構成要素やその特徴を挙げ、定義している点では、類似している。(表1)

表1 ストレングスの構成要素と特徴

構成要素と特徴	構成要素								特徴	
	個人の構成要素						環境の構成要素			
著者	能力	自信	希望	目標	価値特性	その他	資源	関係性	生成発達	機会
Weickら (1989)	○ 才能・キャパシ ティ・未活用で未 決定の貯蔵庫		○願望				○			
saleebey (1996)	○ 能力					○利点	○			
狭間 (2006)	○ 力・優れたもの・ うまくいくもの						○	○	○	
森下 (2012)	○ 能力		○願望			○ プライド		○	○	
山口(2004) (2009)	○総合的な力 ○能力・強さ				○	○ 豊かさ			○体験	
福岡、畦地 (2012)	○総合的な力								○	
Rappら (2014)	○能力・内在	○	○熱望	○			○			○

《 》は構成要素、[]は特徴を記述する。
構成要素は、個人の構成要素と環境の構成要素が抽出されている。

個人の構成要素として、《能力》、《自信》、《希望》、《目標》、《価値・特性》、《その他》が抽出された。Weickら⁶⁾とSaleebey⁷⁾、狭間⁸⁾、森下⁹⁾、山口¹⁰⁾¹¹⁾、福岡ら¹²⁾、Rappら¹³⁾は、ストレングスをすべての人々がもつ《能力》(能力、才能、スキル、キャパシティ、統合的な力、力、優れたもの)であるとしている。Weickら⁶⁾とRappら¹³⁾は、表面化していない潜在的な能力についても能力をもっているとし、ストレングスに焦点を当てる必要性を述べている。Rappら¹³⁾は、《自信》について「力、影響力、自己信頼、自己効力感は自信の概念に関係する」と述べており、自信がもてる人は、自尊心が高く、目標に向けて行動を起こすことができるとしている。また、Weickら⁶⁾、森下⁹⁾、Rappら¹³⁾はストレングスには《希望》があるとしている。Weickら⁶⁾、森下⁹⁾はそれを「願望」と表し、Rappら¹³⁾は、「熱望」としている。Rappら¹³⁾は、ストレングスは単なる対処ではなくむしろ夢を

見ることや希望をもつことであり、打ち克ち成功する喜びであり、その成功を得るには目標や夢や願望が必要であると述べ、「熱望」の中に《目標》も含んでいた。次に《価値・特性》として、山口¹⁰⁾は主観性、潜在性、抽象性、経験性を挙げている。

環境の構成要素として、《資源》と《関係性》が抽出された。Weickら⁶⁾とSaleebey⁷⁾、狭間⁸⁾、Rappら¹³⁾は、環境のストレングスとして、サービスや制度などを含んだ《資源》があるとしている。狭間⁸⁾は、「個人だけでなく、家族などの集団やコミュニティも保有するもので、資源という意味も含まれる」と述べている。また《関係性》として、狭間⁸⁾は、「科学的用語ではなく人々の社会相互作用の中で構成された言葉である」とし、森下⁹⁾は、対象者が所属する社会の中で、人としての価値を認められ、尊重されることを《関係性》と表している。《関係性》は治療関係者だけではなく、周囲の人々との関係性として表されている。

また、定義の中には、ストレングスの構成要素と同時に、ストレングスの特徴を示すと考え

られる記述が含まれていた。それが「生成・発達」と「機会」である。

狭間⁸⁾、福岡ら¹²⁾はストレングスを「生成・発達」するものと捉え、山口¹¹⁾は経験から培われているものとし、森下⁹⁾は、相互作用によって発展していくとして、固定化していないことを表している。またRappら¹³⁾は、「機会」として、地域生活には可能性の機会となる無数の空所があると表している。

これらの文献検討よりストレングスとは「本人、家族、グループ、コミュニティがもっている固有の総合された力であり、対象者が望む方向に向かって培われていく強さとして、生活経験の中で生成・発達する。」と定義することができる。つまり、ストレングスは、問題点に焦点を当ててのではなく、価値・特性として捉えることができる。

2. 支援者の姿勢

ここで、姿勢という言葉に定義し、地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢とはどのようなものか、文献検討で得られた結果について記述する。

1) 姿勢の定義

姿勢とは、広辞苑²³⁾によると「事に当たる態度」とされており、物事に対する心構えや気持ちなどが含まれる。

高藤ら²⁴⁾は、訪問看護師の姿勢の定義として「認知症高齢者に対する訪問看護師の思い、価値観、態度など、看護援助を行う上で基盤となるもの」と述べている。また、星川ら²⁵⁾は、看護師の姿勢について「専門職としての信念や価値に基づいて形成された看護師のとらえや看護支援の基盤となる姿勢」と定義している。

野嶋ら²⁶⁾は、患者の意思決定を支える看護に必要なものとして、「姿勢を育むための知識」を挙げており、その中に「看護に関する知識」「倫理に関する知識」が含まれると述べている。

これらの文献検討より「地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢」とは、「ストレングスを高めるケアを行っていくための態度、価値観、

倫理的配慮、知識など専門職として実践を行う上で基盤となるもの」と定義した。

2) 地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢の特徴

看護師、ソーシャルワーカーなどの既存の研究より「地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢」にあたりと考えられる記述を抽出した。結果、【人に焦点を当てる】【対象者を尊重する】【対象者と信頼関係を築く】【力が備わっていると信じる】【個人の強さに焦点を当てる】【共に歩む】の6つの姿勢が抽出された。

【 】は大カテゴリー、〈 〉は中カテゴリー、『 』はデータを記述する。

(1) 【人に焦点を当てる】

【人に焦点を当てる】とは、病理や障がいに焦点を向けるのではなく、一人の人に焦点を当てる姿勢である。このカテゴリーは、2つのサブカテゴリー〈地域で生活する人としてかかわる〉〈一人の人としてかかわる〉から成り立っている。

〈地域で生活する人としてかかわる〉とは、地域で生活する人として考えていくという思いであり、『患者から地域生活者へという医療側の意識改革』¹⁶⁾や『同じ一人の人間として健常者や障害者、専門家や非専門家の区別なく地域住民・生活者として共存していく志向への転換』⁵⁾などのデータから抽出した。〈一人の人としてかかわる〉とは、一人の個人として接することを大事にすることであり、『患者として扱うのではなく、一人の人として支援すること』¹³⁾や『病理や問題点に焦点を当ててではなく、成長や発展を促す個人をアセスメントする』²²⁾などのデータから抽出した。

(2) 【対象者を尊重する】

【対象者を尊重する】とは、精神障がい者の生活を基準に精神障がい者の意思や思いを尊重し、かかわろうとする姿勢である。このカテゴリーは、4つのサブカテゴリー〈対象者の価値を認める〉〈対象者を尊重する〉〈対象者に共感する〉〈対象者に配慮する〉から成り立っている。

〈対象者の価値を認める〉とは、対象者の個別性を大事にすることであり、『対象者との話し合いの中で対象者個人の価値観を認める』⁵⁾などのデータから抽出した。〈対象者を尊重する〉とは、対象者の思いや考え方等を認め、受容することであり、『先行研究でも、当事者の感情に共感することや当事者のペースを尊重することの必要性が示されていた』¹⁴⁾『対象者を尊重した会話を行う』⁵⁾などからデータを抽出した。

〈対象者に共感する〉とは、対象者の立場にたって考えるということを大事にすることであり、『それぞれの人生に関して共感を持って分かち合うことも必要』¹⁸⁾などのデータから抽出した。

〈対象者に配慮する〉とは、対象者への気配りのことであり、『対象者に対し、思いやりを示す』⁵⁾などからデータを抽出した。

(3) 【対象者と信頼関係を築く】

【対象者と信頼関係を築く】とは、精神障がい者と支援者がお互いに信頼しあう関係を構築し、安心できる関係を築くことを大切にかかわる姿勢である。このカテゴリーは、1つのサブカテゴリー〈信頼関係を築くかかわりをする〉から成り立っている。

〈信頼関係を築くかかわりをする〉とは、当事者と信じ合える関係性を築くことであり、『当事者に肯定的な関心をもち信頼関係を築いたからこそ、当事者にさまざまなことを話してもらえる』¹⁵⁾『本人のストレングスは何かと考える過程で信頼関係が生まれると考えられる』¹⁷⁾などのデータから抽出した。

(4) 【力が備わっていると信じる】

【力が備わっていると信じる】とは、精神障がい者には、何らかの力の存在（潜在能力）があると信じかかわる姿勢である。このカテゴリーは、2つのサブカテゴリー〈力の存在を見つけるようにかかわる〉〈可能性の存在を信じる〉から成り立っている。

〈力の存在を見つけるようにかかわる〉とは、対象者の言動から力を見出すことを大事にすることであり、『本人、家族、関係機関に本人の良い変化、さらにこれから身につけたい事柄などを聞く』¹⁶⁾や『対象者が乗り越えてきた語りを聞くことでその人らしく力を発揮し、新たな力を獲得してきたことを知る』¹⁵⁾『当

事者から語ってもらうか、一緒に行動していく中で発見する』¹⁸⁾などのデータから抽出した。

〈可能性の存在を信じる〉とは、対象者の力の存在を信じることであり、『人は誰でもストレングスを生来的にもっている』⁴⁾や『対象者が力を発揮するために問題点の中に埋もれている欲求をかなえるために行動する力に注目する』¹⁴⁾などのデータから抽出した。

(5) 【個人の強さに焦点を当てる】

【個人の強さに焦点を当てる】とは、精神障がい者の能力や希望、趣味、可能性や長所などに焦点を当ててかかわる姿勢である。このカテゴリーは、1つのサブカテゴリー〈強さに焦点を当てる〉から成り立っている。

〈強さに焦点を当てる〉とは、対象者の持つ力を見ようとするのであり、『強さに焦点をあてることは動機を高めることになる』¹⁹⁾や『精神保健福祉家に関心・能力・知識・才能・希望や肯定的側面に焦点を当てる』⁵⁾などのデータから抽出した。

(6) 【共に歩む】

【共に歩む】とは、精神障がい者の気持ちに寄り添い、見守り、進む方向性を共に考えるようにかかわる姿勢である。このカテゴリーは、2つのサブカテゴリー〈一緒に歩む〉〈見守る・寄り添う〉から成り立っている。

〈一緒に歩む〉とは、対象者と協働していくことであり、『お互いの力を合わせて目標に向けた新たな挑戦をしていくことが必要』¹⁸⁾『利用者として協働して支援展開を行う』¹⁰⁾などのデータから抽出した。〈見守る・寄り添う〉は、距離感を保ちながら歩いていくことであり、『その人らしい生き方を選んで歩いていく過程を焦ったり、不安になったりすることなく見守り、寄り添っていた』¹⁴⁾などのデータから抽出した。

IV. 考 察

ストレングスの定義と地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢について考察する。

1. ストレングスの定義

ストレングスとは、1970年代初頭のマルイシ

オにより、病理から人間の強さ、資源、可能性への注目が強調²⁵⁾されるようになり、1980年代後半より、従来支配的であった病理／欠陥モデルへの批判的潮流の中で注目が高まった概念⁸⁾であると言えるだろう。

文献検討の結果、ストレングスとは「本人、家族、グループ、コミュニティがもっている固有の総合された力であり、対象者が望む方向に向かって培われていく強さとして、生活経験の中で生成・発達する。」と定義し、構成要素として「個人のストレングスを構成する要素（能力、自信、希望、目標、価値・特性）」「環境のストレングスを構成する要素（資源、関係性）」「ストレングスの特徴（生成・発達、機会）」が挙げられると考えられる。個人のストレングスのみに注目するのではなく、環境のストレングスも視野にいれ、かつ、それらは成長するものと捉える視点に、ストレングスという概念の特徴が現れていると考えられる。

2. 地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢

地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる看護師の姿勢とは、「ストレングスを高めるケアを行っていくための看護師の態度、価値観、倫理的配慮、知識など専門職として看護実践を行う上で、基盤となるもの」であると捉えられた。地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢は、【人に焦点を当てる】【対象者を尊重する】【対象者と信頼関係を築く】といった対象者の主体性を尊重する姿勢を基礎とし、【力が備わっていると信じる】【個人の強さに焦点を当てる】というストレングスを見出そうとする姿勢、【共に歩む】という対象者と協働する姿勢により成り立っていると考えられた。これらの姿勢がストレングスを高めるケアにつながっていくと考えられる。

1) 対象者の主体性を尊重する姿勢

野嶋ら²⁸⁾は、関わり方の基盤として「関心をよせる」「尊重する」の2つの看護の姿勢を挙げ、「《関わり方の基盤》を構成する看護行為は、急性期の患者や社会復帰段階にある患者、社会生活

を営む患者など対象となる患者の健康レベルは様々であっても、看護活動を支える土台として活用されていることは明らかである」と述べている。これは、対象者の主体性を尊重したかわりによって得られた関係性は、ストレングスを高めるケアの姿勢の基盤として重要であると考えられる。

本研究では、【人に焦点を当てる】【対象者を尊重する】【対象者と信頼関係を築く】という対象者の主体性を尊重する姿勢が抽出された。

対象者の主体性を尊重するということは、その人自身に焦点を当てることであり、信頼関係を構築し、地域で生活する人としてかわり、その人の考え方や個性などその人本来の姿を見つけてことができるようになることであると考えられる。また、これは、個人のストレングスを構成する要素《能力、自信、希望、目標、価値・特性》を尊重してかわることにもつながると考えられる。

2) スtrenグスを見出そうとする姿勢

佐藤²⁹⁾は、「従来の支援フレームを転換し、そこから発見する新たな気づき（強み）に基づいて、可能性のある支援展開を図ろうとするもの」と述べ、強さに焦点を当てる必要性を挙げられている。佐藤が述べるように強みに気づくことが【力が備わっていると信じる】【個人の強さに焦点を当てる】という姿勢であると考えられる。

看護師は、対象者の力の存在を信じることで新たなストレングスを見出し、個人のストレングスを構成する要素である《能力》とストレングスの特徴である【生成・発達】を明らかにすることができると考えられた。また、ストレングスを見出すことで、個人のストレングスを構成する要素を環境のストレングスを構成する要素である《資源》と結びつけることができるようになり、ストレングスがさらに高まると考えられる。

3) 対象者と協働する姿勢

神山²⁶⁾は「ストレングスの視点は、利用者の語るストーリーからその強さを引き出し、新しく組み替え、再認識する過程であり、それは援

助者との共同実践の過程でもある」と述べられており対象者と協働することの重要性が語られていると考えられる。

ストレングスの概念から捉えると支援者は、環境のストレングスを構成する要素である《資源》と《関係性》であると考えられる。支援者が【共に歩む】という姿勢を有することによって、環境のストレングスとしての支援者を強化し、さらには、ストレングスを「生成・発達」させる「機会」となり、ストレングスを発揮させることができると考えられる。

V. 終わりに

本研究の結果、ストレングスとは、「本人、家族、グループ、コミュニティがもっている固有の総合された力であり、対象者が望む方向に向かって培われていく強さとして、生活経験の中で生成・発達する。」ものであり、ストレングスを高めるケアに取り組んでいる支援者の姿勢として、【人に焦点を当てる】【対象者を尊重する】【対象者と信頼関係を作る】【力が備わっていると信じる】【個人の強さに焦点を当てる】【共に歩む】の6つの姿勢が明らかになった。

しかし、ストレングスを高めるケアに取り組んでいる看護師の姿勢に焦点を当てた研究が見られなかったため、本研究では、看護師のみならず、ソーシャルワーカーの地域で生活する精神障がい者のストレングスを高めるケアへの取り組みを記述した既存の文献より姿勢を抽出している。そのため、看護師の独自性のストレングスを高めるケアの姿勢は明らかになっていない。

今後は、看護師を対象に、インタビューを実施し、看護師独自のストレングスを高めるケアの姿勢を明らかにする必要がある。

<引用文献>

- 1) 厚生労働省ホームページ：「精神保健医療福祉の改革ビジョン」<http://www.mhlw.go.jp/topics/2004/09/tp0902-1.html>, 2004.
- 2) 厚生労働省ホームページ：「精神障害者地域移行支援特別対策事業」http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/service/dl/chiikiikou_01.pdf, 2011.

- 3) 厚生労働省ホームページ：「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/s0924-2.html>, 2009.
- 4) 白澤政和編：ストレングスモデルのケアマネジメント いかにか本人の意欲・能力・抱負を高めていくか、ミネルヴァ書房、6-17、2009.
- 5) 多田羅光美、國方弘子：精神障がい者の希望を引き出す精神科看護職の看護活動の構造、日本保健科学学会、16(1)、5-13、2013.
- 6) Weick, A et al : A Strengths Perspective for Social Work Practice, Social Work, 34(4), 350-354, 1989.
- 7) Saleebey, D : The strengths perspective in social work practice : extensions and cautions, Social Work, 41(3), 296-305, 1996.
- 8) 狭間香代子：社会福祉の援助観 ストレングス視点・社会構成主義・エンパワメント、筒井書房、96-163、2006.
- 9) 森下幸子：家族の強み (Family Strengths) を支援する看護、家族看護選書 第4巻、在宅での家族への看護、日本看護協会出版、2-12、2012.
- 10) 山口真里：ストレングスに着目した支援過程研究の意味、福祉社会研究、第4・5号、97-114、2004.
- 11) 山口真里：ソーシャルワークにおけるストレングスの特性一類似概念との比較をつうじて一、広島国際大学医療福祉学科紀要、5、65-78、2009.
- 12) 福岡雅津子、畦地博子：摂食障害をもつ人のストレングスを高めるケア、高知女子大学看護学会誌、38(1)、61-67、2012.
- 13) Rapp, C. A, Goscha, R. J : The Strengths Model A Recovery Oriented Approach to Mental Health Services Third Edition (3nd), 2012, 田中英樹訳：ストレングスモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス、第3版、金剛出版、45-377、2014.

- 14) 濱田淳子：地域で暮らす精神障害者に対して用いられる熟練看護師の技、日本精神保健看護学会、16(1)、40-48、2007.
- 15) 濱田淳子、與那覇五重：訪問看護師が感じた利用者の「もてる力」日本精神科看護学会誌52(2)、332-336、2009.
- 16) 小澤壽江：精神科リハビリテーションにおける援助の考察 利用者がいきいきとした生活を送れるようにストレングスモデルとICFの概念を取り入れた評価表を使用した援助の実際、日本精神科看護学会誌、51(3)、209-213、2008.
- 17) 藤井陽子：外来と連携し支援困難事例にあたる病棟看護師の役割 継続的に外来で面接を行った効果、日本精神科看護学会誌54(3)、71-75、2011.
- 18) 三品桂子：ストレングス視点に基づく生活支援、精神科臨床サービス、3(4)、467-472、2003.
- 19) 濱田龍之介、江畑啓介：ストレングス・モデルー精神保健福祉援助のための新しいパラダイムー、精神科臨床サービス、1(2)、195-198、2001.
- 20) 奥村賢一：ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察 ー軽度知的障害者の地域生活支援実践を通してー、社会福祉学、50(1)、134-147、2009.
- 21) 下原美子：地域で生活する統合失調症患者の主観的QOLの実態と精神科訪問看護との関連、日本精神保健看護学会誌、21(1)、1-11、2012.
- 22) 半澤節子：保健婦のアセスメントーストレングス・モデルを取り入れ個人と環境をアセスメントするためにー、精神科臨床サービス、1(1)、294-297、2001.
- 23) 広辞苑：第6版、岩波書店 (EX-word)、2009.
- 24) 高藤裕子、森下安子、時長美希：認知症高齢者の生活機能の維持・向上を支援する訪問看護師の姿勢、高知学園短期大学紀要、40、11-21、2010.
- 25) 星川理恵、野嶋佐由美、長戸和子：家族の問題解決力を育成する際の看護者の姿勢、高知女子大学紀要 看護学部編、58、43-51、2008.
- 26) 野嶋佐由美・畦地博子・中野綾美ほか：患者の意思決定を支える看護の基盤についての看護者の認識、高知女子大学紀要 看護学部編 49、1999.
- 27) 神山裕美：ストレングス視点によるジェネラリスト・ソーシャルワーカー地域生活支援に向けた視点と枠組みー、山梨県立大学人間福祉部紀要、1、1-10、2006.
- 28) 野嶋佐由美・梶本市子・畦地博子ほか：精神科の看護活動分類 (第一報)、日本看護科学学会誌23(4)、1-9、2004.
- 29) 佐藤光正：ケアマネジメントにおける看護師の役割への期待、病院・地域精神医学52(3)、78-80、2010.